

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第127号 〔2021年8月発行〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAMより、2021年8月号の会報をお送りします。

JAMは2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へJAMの最新の活動を2カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

現地（メソト）から

国内から

国際保健医療協力のなかで（49）

編集後記

次号の予定



現地（メソト）から

【メソト：有高】

タイトルは「現地（メソト）から」となっていますが、7月末に再渡航予定だった私は、まだ日本にいます。新型コロナウイルス感染症は日本のみならずタイでも猛威を振るい、タイ全土の8月中旬の1日新規感染者数は2万人以上、死者数は200人に達しています（人口が約2倍の日本では新規感染者数15,000~18,000人、死者数10~30人）。そのため現在バンコクはロックダウンされており、私はロックダウンが解除されないとビザが取得できない状況に陥っています。

メソトでも6月末にミャンマー人工場労働者の間で500人規模のクラスターが報告されたのを皮切りに、現在までに3000人を超える感染者が見つかっています。

メータオ・クリニックは、タイ保健省からの依頼で当初から公式の野戦病院となり、無症状のミャンマー人労働者60人以上の入院を受け入れました。しかし、7月上旬にスタッフ1名に感染が判明、その後、全スタッフ、同居家族、周囲のコミュニティで接触が疑われる人々計774名の検査を行ったところ、209人の陽性者が判明しました。この事態を受けて7月16日からメータオ・クリニックのほとんどの診療機能は一旦停止され、今もクリニック内の多くの建物で陽性者の隔離、濃厚接触者の検疫が行われています。過去に経験がないであろう非常事態の中で、検査で陰性だったスタッフがクリニックに泊まり込んで陽性者の診療に当たり、非医療スタッフも食事の準備など後方支援を行っています。幸い現在まで死者は報告されていませんが、新型コロナウイルス感染症がタイで報告されてから1年半、全スタッフが感染予防の講習やトレーニングを受けてきたにも拘らず、院内感染を防げなかった事実はクリニックにとって大きな衝撃でした。私も講習を行ったり、食事の場にせめてパーティションを設置すべきと主張したりしてきましたが、入院患者に複数の家族がずっと付き添い、病院内でもみんなで食事するのが文化というお国柄の中、日本の常識は通用しません。自分が院内感染の起きる直前に帰国しており、一番大変な時にクリニックにいられなかったことも含め、忸怩たる思いでいっぱいです。

感染者の増加を受けて7月下旬からメソト全体がロックダウンされ、食料を買う以外の外出が禁止される中、幸いなことにクリニックには周囲のコミュニティから続々と食料や寝具（ござ）が寄付されています。

クリニックのFacebookに投稿された多くの写真を見ると、メータオ・クリニックがいかにメソトの人々から愛され、支えられているかを実感し、スタッフも周囲のコミュニティも含めて私たちは家族のようなもの、というシンシア先生の言葉を思い出します。そのコミュニティのためにもメータオ・クリニックが今回の出来事を乗り越え、より安全に医療を提供できる存在になることを期待して、私もそのために尽力したいと思います。

そしてミャンマーはクーデター後の混乱に加え、6月中旬から新型コロナウイルスの感染者が激増し、今一番足りないのは棺桶、とまで言われる惨状となっています。保健・スポーツ省は8月中旬現在、1日の新規感染者数3,500人、死者数200人ほどと報告していますが、火葬場に運び込まれる遺体の数などから実際の死者数はこれを大幅に上回ると推測されます。都市部の市民は軍政が酸素の供給を制限する中、感染しても入院できない家族のため



酸素を求めて奔走し、市民的不服従により病院を離れた医療者が人々の家を訪問し、できる限りの治療を行っています。現在15万人と言われる国内避難民の情報は限られますが、KawThooLei Department of Health and Welfare (KDHW) によると8月10日までにカレン州、モン州、バゴー地域、タニンダーリ地域で計14,474人の確定例、1,128人の死亡例が報告されています。直近の検査陽性率は37%で、おそらくもっと検査をすればさらに多くの陽性者が発見されるはずですが、抗原検査キット、治療薬、酸素など何もかもが足りない状況とのことです。

JAMは東ミャンマー緊急支援として6月、7月に13名の方から、234,500円のご支援をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。いただいたご支援は5月に100万円を送金した際の残額189,524円、5月分の131,681円と合わせ、まとまった額になり次第、第三弾としてメータオ・クリニックに送金する予定です。

日本も長引く新型コロナウイルス感染症の影響で大変な時期ではありますが、ミャンマーの窮状は比ぶべくもなく、今後ともメータオ・クリニックに温かいご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



(写真1：メータオ・クリニック Facebook より) メソトのコミュニティからメータオ・クリニックに食料の寄付が続いています。



(写真2：メータオ・クリニック Facebook より) お坊さんが防護服を寄付して下さいました。





(写真3：個人のFacebookより) ヤンゴンで夜間に軍の監視をかいくぐり、酸素ボンベを運ぶボランティアたち。



(写真4：メータオ・クリニックの関連民族医療団体より) カレン州内のクリニックでの診療風景。供給は限られますが、酸素ボンベもあります。

国内から

【日本事務局：秋山】

皆様こんにちは。

会員の皆様からのご支援に御礼申し上げます。JAMで理事をしております秋山剛と申します。10年ほど前までは、1年に1回は本会の学校保健の関係でメーソットに滞在しておりました。以後、なかなか現地を訪れる機会がなく、現在に至っています。

国軍のクーデターに伴う抑圧や暴力、そして新型コロナウイルスの流行と、深刻な状況が続いています。悲しい出来事が数多く起こっている一方で、遠隔コミュニケーション技術の顕著な発達やスマートフォン、SNSの普及は、以前とは異なる点かと思えます。ミャンマー国内ではインターネット遮断の問題もあるものの、日本から国外と遠隔コミュニケーションを行うことが簡単にできるようになりました。また、遠隔によるシンポジウム、勉強会、映像配信やSNSによる個人の情報発信が当たり前になりました。これら情報技術の発展と普及により、支援や連携の在り方について、可能性が広がったと感じています。ただしその代わり、情報リテラシーやメディア・リテラシーの問題は、今後、さらに重要になってくるとも、思います。

しかし、遠隔でのコミュニケーションは便利であるものの、人と人との関係を深めたり、広げたりするには、限界もあると感じています。気軽にメーソットやミャンマー国内へ渡航できる日が一刻も早く来るように願うとともに、そのためにも、可能な支援に協力してゆきたいと考えています。

最後に、本会の活動に賛同いただいております会員の皆様には、重ねて心から御礼申し上げます。今後とも、どうかよろしく願いいたします。

国際保健医療協力のなかで (49)

【小林 潤】

アジアのなかの日本の役割を考える上で、教科書から消された歴史を書いてみたい。

南蛮貿易といわれているが、16世紀以降東南アジアの各地に日本人がすむようになり、街を形成した。有名なのは山田長政で、現在のタイであるアユタヤ王朝で特別な官位を得て、15000人程度の日本人長を束ねていたといわれている。このころ実は日本は世界でも有数の軍事力をもった国だったことは知っているだろうか。種子島への鉄砲伝来は有名だが、そのあと国産の質の良い鉄砲を生産できるようになっていたのは、アジアでは日本に右に出る国はない。さらにそこに鍛え抜かれた武士が日本各地にいた。日本武士はオランダに傭兵として雇われて、だからこそオランダはスペインとの植民地の紛争戦に勝利していったといわれている。

ただ山田長政らは、傭兵として略奪をする先兵であったわけではない。当時の列強による



植民地政策はいわゆる略奪であった。異教徒からの略奪は罪にならないとキリスト教司教がいていたとも言われているのだから、ひどい話である。スペインやポルトガルの貿易船といっても、圧倒的な軍備を備えた軍艦で世界各地を植民地化し、その遠征費用を賄いさらなる利益を得るために略奪を繰り返していたと言われる。アメリカ大陸のインカやマヤ文明も最終的には滅ぼされてしまった。さらに後続のオランダやイギリスも同様なことが行われ、アジア各地も植民地化されてしまっていた。アジアにおいては、この一方的な略奪をしない貿易の取引先として日本があり、且つ軍事力も持ちあわせていてスペインやポルトガルの一方的略奪を防ぎ、監視する役割ももっていたのではないかという説もある。第2次世界大戦前の歴史の教科書にはこのような記述があったそうだ。

日本が第2次世界大戦でしたことを肯定したいわけではない。しかし日本がアジアのなかの一員としてアジアを守った面も歴史上にあることは学ぶべきことと思う。さらに戦後の日本の開発援助で行ってきたことは、国造り人づくりであり、日本の国益を全面に出すものではなかったからこそアジアを中心に世界に受け入れられていった。ミャンマーの現在の混乱に、中国やロシアといった世界の大国の影がみえることは間違いない。政治と日本の政治の関わりは極めて複雑であり、これが良い悪いという短絡的な意見は言えないと思う。8月3日の今日、ASEANのミャンマーへの特使派遣に調整が難航しているとの話がある。一方、国連ブルゲナー事務総長からは「日本は調整役として重要な役割を果たせる」との発言があったとのことで、日本政府外務省の外交努力に期待したい。

編集後記

小学校1年生の夏休みあるある「あさがおのお世話は、おうちの人がんばる」日々です。

まず、終業式前に私が学校にあさがおの鉢を取りに行くことから始まりました。毎日忘れずに水やりをしたり、時々ツルを巻きなおして整えたり、手をかけると、みごとな花を咲かせて応えてくれるのが楽しくて、毎朝、せっせとお世話をしています。今日は、種をなんと90粒ほど収穫しました。まだまだ、つぼみも次々出来ているし、種も楽しませてくれそうです。

始業式に学校に鉢を戻しに行くことになっているので、あと数日、お世話にいそしもうと思います。そして宿題の追い込み、がんばります。



次号の予定

次号は、10月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。



メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。支援の輪が広がっていただけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会
Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

